

【年頭所感】ヤマモリ株式会社 代表取締役社長執行役員 三林 圭介 ご挨拶

～130年企業のバトンを受け取り、次の100年へ～

あらゆる環境変化に「アジャイルに倍速で」対応できる組織能力の構築を

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

私が社長に就任致しました2022年を振り返ると、3年目を迎えるwithコロナの環境に加えて世界情勢の大きな変化による原料価格高騰、さらには30余年振りの円安といったこれまでに想像し得なかったことが立て続けに起こった激動の1年、数々の厳しい選択を迫られる苦しみを伴う1年でありました。

その1年を、当社では「環境への適応」と「意識改革」で乗り越えてまいりました。21年より着手した改革プロジェクトYTA(ヤマモリ・ターン・アラウンド)による生産性と収益力の強化等が奏功した成果を早くも出すことができました。2022年度についても同じくYTAの活動下、過去最高売り上げ(263.8億円)を記録した前年を超える売上予算の達成に向け全社で取り組んでいます。

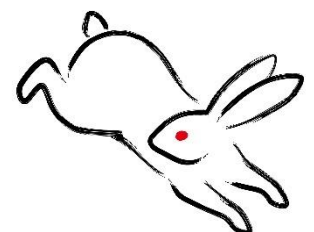
商品では50余年にわたりご愛顧をいただいている「釜めしの素」の大刷新を行い、おいしさはそのままに、より簡便に、環境に配慮した設計を実現しました。「タイカレー」に代表される「タイフード」シリーズは、在宅・内食傾向が高まる中、“非日常を味わう楽しさ”を多くのご家庭にお届けすることができました。

新商品では、2月に発売した「名古屋丼」が好例です。ブランド戦略を策定し、商品コンセプトの開発からありとあらゆるタッチポイントでクリエイティブをマネジメントし実行することで、「名古屋を代表する食品メーカー＝ヤマモリ」の知覚の獲得を狙います。

社長就任2年目となる2023年、その後に続く中・長期の成長のために、いま必要なのは環境変化に俊敏に対応できる組織能力だと考えています。

全社を横断する改革を進め、会社の収益基盤を固め、ヤマモリを筋肉質の会社にして、グループの仲間全員で、この難局を利用した躍進の1年にしてまいります。そのために現在掲げているスローガンは「倍速」です。倍の速度で考える、会議の時間を半分にする、生産効率を倍にする手段を常に考えやってみる、1回の商談の中での提案を2倍にするなど、各部門でできる「倍速」を出し合い実行に移しています。

具体的な成長戦略として描いているのは会社の<マーケティングシフト><海外事業の拡大>、そして<新しい事業への取り組み>であります。



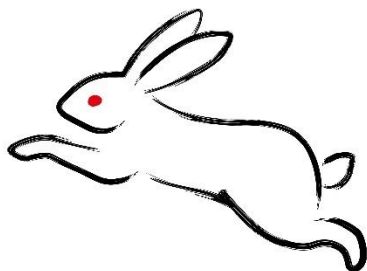
ヤマモリというブランドをよりよく、より多くのお客様にご理解いただき、選んでいただくために商品を軸にしたブランド戦略策定と多様な施策の実行を、私が陣頭指揮を執り進めてまいります。

タイに拠点を置く海外事業は、良質な醤油をベースにした調味料をタイで生産できることを強みとし、アセアン各国で大きなニーズのある日本食マーケットの拡大を支えてまいります。



これまでの事業、商品を大切にしながら、変わりゆくお客様のニーズや時代の要求にこたえる新たな事業、サービスへの参入もあらゆる方向から検討し、実施してまいります。

予測不能な環境変化への適応を同時多発的に行う。そして、これらの活動を通じ、成長戦略のシナジー効果を生み出してまいります。



2023年は癸卯(みずのとう)の年であります。この年は「これまでの努力が花開き、実り始める」、また、跳躍するウサギになぞらえ「飛躍、向上」を意味する大変に縁起の良い年です。

社会環境はまだまだ厳しい VUCA 時代、何が起こるか予測不可能な状況ではありますが、厳しさの中にも希望を見出し、癸卯の年らしい次の跳躍につながる一手が打ち出せる、そんな1年になることを確信しております。

2023年、当社は135年目を迎えます。

次の100年にバトンを渡すため、仲間である従業員とのエンゲージメントを高め、一致団結して臨む所存でございます。

今年も変わらぬご指導・ご鞭撻のほど伏してお願い申し上げます。



<本件に関するお問い合わせ先>

ヤマモリ株式会社 広報部

担当：神門 (070-8813-8295)・安本 (090-5030-5297)・小林 (080-2622-9412)

E-MAIL : n_jinmon@yamamori.co.jp